

【最優秀賞】

食べる楽しみをいつまでも 2008

～ソフト食標準化（レシピ化）への取り組み～

神戸〈ゆうゆうの里〉 食事サービス課
○古 野 徹
野 田 朋 子

【目 的】

昨年、粥食やミキサー食しか食べることができないご入居者の「お寿司が食べたい」という願いを叶えるために「安全で食べる楽しみをいつまでも」のテーマのもと、お粥で安全なお寿司を提供することが出来ました。今年度は、ソフト食の毎食提供が出来るように開発・作業工程の標準化（レシピ化）を目標に取り組んできました。

【内 容】

ソフト食の毎食提供が出来なかった問題点として、「レシピがない」「時間が足りない」の2点が挙がりました。解決への取り組みとして、今年度は作業工程をレシピ化することから開始しました。

- ①肉料理、魚料理をソフト食として提供するための対応策。
- ②プリン粥の「水っぽさ」の問題点に対しての増粘剤の変更と試作。
- ③新しい増粘剤を使用するにあたり、その増粘剤の特性を利用した温かいソフト食への試作。

【結果・考察】

- ・肉料理、魚料理の種類に適した固さになるように手順・増粘剤配合具合の標準化（レシピ化）により、見映えの良いソフト食の提供が可能になった。
- ・プリン粥の「水っぽさ」の問題点に関しては、文献を参考することにより、適した増粘剤を見つけることができた。
- ・新しい増粘剤の特性をいかすことにより、「温かいソフト食」の提供が可能となり、見た目にも重点をおくことができた。

今後の課題は、現在 30%の提供ですが、今年度は 50%、来年度は 100%、毎食提供出来るようにすることを目標に掲げて、職員の誰が作っても同一の固さや、形のソフト食を作れるように 100%レシピ化を目指していきたいと思います。今後は、毎食提供するための時間が無いことに対する、他の業務の作業時間の見直しを計れるように努めます。

【優秀賞】

合格のたすきリレー

～資格取得支援～

佐倉〈ゆうゆうの里〉

生活サービス課・ケアサービス課

○山中潤子 明石美華 押切あゆみ

菅谷久美子 中橋典子 柵木知典

後藤隆 京増孝治

【目的】

- ・ 専門的な知識に裏付けられたサービスを提供すること
 - ・ 職員が専門的な知識をもつことにより自信を持って仕事ができること
 - ・ 専門資格を持った職員が多くいることで施設として社会的信頼を得ること
- 以上3点を目的とした。

【内容】

従来、佐倉〈ゆうゆうの里〉では、資格取得の試験を受ける職員への支援は特に行ってこなかった。職員が自主的に勉強会を開くことはしていた。この自主的な勉強会を機に平成17年より施設をあげて継続的に介護福祉士と介護支援専門員の資格取得のための支援を行うこととなった。

- ・ 内容は講習と模擬試験（実技模擬も含む）
期間は3ヶ月前
頻度は月2回
時間は業務終了後1時間
テキスト、ビデオを施設で購入し活用した。
- ・ 平成18年より、前年度以前に合格した者が、支援を行うこととした。

【結果・考察】

- ・ 平成17年から平成19年の介護福祉士の合格率は、全国の平均がどの年も50%以下であったが佐倉〈ゆうゆうの里〉では、70%を超えた。平成14年から平成17年までに31～32名だった介護福祉士は、平成20年には70名となった。他の〈ゆうゆうの里〉6施設の介護福祉士の平均人数は、28名であり、佐倉施設はその2倍以上となっている。
- ・ 講習を受けた職員からは、「模擬で同じような試験問題が出た。」「講習や模擬が勉強する機会となった。」「みんなで勉強することでやる気がわいた。」等の声が上がっている。
- ・ 受験のきっかけを作り、勉強をよりしやすくすることができたことにより、受験者および資格取得者を増やせたこと、また受験者の声から、専門的知識により一人一人が自信をもって仕事に取り組むことにつながった。また、第3者評価で高い評価を得ることもできた。従来、生徒として、参加した職員が講師になることで、試験にむけてのよりの確なアドバイスを行うことができた。最も有効であったのは、介護福祉士の実技試験の模擬であった。
- ・ 今後も「合格のたすきリレー」を途絶えることなく繋げ、試験を受ける資格のある者の全員合格を目指す。

【優秀賞】

〈ゆうゆうの里〉での生活を知ってもらいたい

～体験入居プランの作成～

神戸〈ゆうゆうの里〉 事務管理課

○金住亜希子・牧野恵理

【目的】

神戸〈ゆうゆうの里〉では、毎月見学会を行っている。好印象もある中、不安な点もよくお聞きする。

「入居後、時間をもてあますのではないか」

「見学中、あまり入居者をみかけないけど皆さんどんな生活をしているの」

「北区って山の中だし不便そう」

今まで通りの生活を続けておられ、旅行やおでかけ、買物やサークル参加など皆さんとても忙しくすごされていると説明するも見学会では実感として伝えることができない。また、体験入居でも同じような印象を持つ方がいらっしゃる。

そこで、里の実生活を伝える機会である体験入居を見直し、お1人おひとり宿泊日にあわせた体験入居プランを作ることによって少しでも生活イメージをもってもらえるのではないかと考えた。

【内容】

① 体験入居の内容を見直し

駅前案内や里バス乗車、積極的にサークルや行事参加をご案内することで入居者と直接ふれあう機会を提供

② 宿泊日にあわせた体験入居プランを作成

体験入居申込時点で、当日の行事やサークル等を調べてプランを作成し、案内書送付時に同封することで、期待をもって来里してもらう

③ 体験入居プランを参考に宿泊体験していただく

【結果・考察】

体験入居プランを作成し、事前に送付することでとても体験入居を楽しみにして頂き来里してもらう事ができた。

今回体験入居の見直しをして、積極的に行事やサークル参加・里バスを利用し駅前案内など入居者の生活により近い宿泊をしてもらうことで、入居者との会話の機会も増えその会話が参考となったとの声が一番多かった。

また、宿泊中の食事やお風呂などの時間の流れが一目でわかるので高齢者の方にもとても理解しやすくなり、数回目の方から「これはとても良いアイデアだね」との評価も頂いた。満足感や生活イメージを作ることができたかとのアンケートでもとても高評価でした。この期間中に宿泊された方で4組/5名の方が申込や契約に至った。今後も体験入居プランを継続しゆうゆうの里での生活をよりよく知ってもらえるように努めたい。

そして検討者の方との信頼関係を結ぶ中で、趣味や興味をお聞きしそれにあわせた宿泊日をこちらからご提案していくことが今後の課題といえる。